

# 北海道における外国人レンタカードライブ観光のニーズと課題\*

## Needs and Problems of Foreign Rent-a-car Drive Tourists in Hokkaido

松田泰明\*\*・和泉晶裕\*\*\*・加納民雄\*\*\*\*・原文宏\*\*\*\*\*・松山雄馬\*\*・加治屋安彦\*\*\*\*\*

By Yasuaki MATSUDA\*\*・Akihiro IZUMI\*\*\*・Tamio KANO\*\*\*\*・Fumihito HARA\*\*\*\*\*・

Yuma MATSUYAMA\*\*・Yasuhiko KAJIYA\*\*\*\*\*

### 1. はじめに

近年、国際観光の重要性が増す中、2007年1月施行の「観光立国推進法」では、国や自治体に対して外国人観光客の増加に繋がる施策を講ずることとされた。また、北海道では恵まれた資源を活かした「観光」を重点施策と位置づけ、外国人観光客の誘致に取り組んでいる。

このような背景のもと、北海道ではアジアを中心に急増する外国人観光客(図1)にも、車窓からの美しい沿道景観などを楽しみながら周遊するドライブ観光のニーズの高いことが、和泉ら<sup>1)</sup>の調査で明らかとなっている。さらに改正道路交通法により、来道外国人観光客の半数以上を占める台湾人について、日本国内での運転が可能になるなど、外国人ドライブ観光の急激な増加が予想される。

しかし、訪日外国人にとって車を使って旅行する環境(以下:ツーリング環境)の整備は十分でなく、ドライブ観光を支えるツーリング環境の改善が急務である。

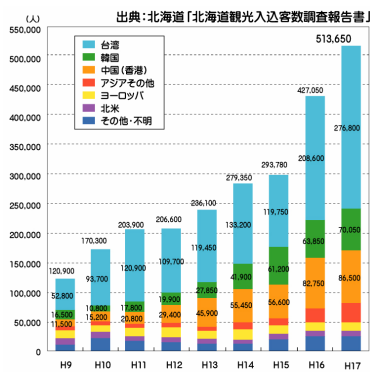


図1 近年の訪日外国人来道数<sup>3)</sup>

そこで、国際競争力があり今後増大が見込まれる北海道における外国人ドライブ観光について、その魅力向上のため官民の関係機関が連携し、国土交通省の「まちなみめぐりナビプロジェクト事業」として「北海道における地域協働型外国人ドライブ観光推進調査」を行った。また、この実験とは別に冬期に豪州からの観光客や外国人にレンタカーを貸し出している事業者への調査も行った。

本報告では、この結果も併せて、外国人レンタカードライブ観光のニーズと課題について考察する。

### 2. 北海道におけるレンタカー観光の現状

ここ数年、来道観光客数が増えない中<sup>2)</sup>、個人型観光への転換から、邦人のレンタカー観光が大幅に伸びている。また、外国人観光においてもレンタカー利用客は近年急増している(図2)。これは北海道内の二次交通の利便性の低さだけでなく、レンタカー観光では沿道に広がる美しい景観や地域特有の豊かな食材、多くの温泉地など、多彩な北海道の観光資源を個人のニーズに合わせて広域的且つ自由に巡ることが出来るためと考えられる。

さらに台湾観光客の国内での運転の可能性や、今後のアジアの発展など、外国人レンタカー観光が大きく増加する可能性がある。

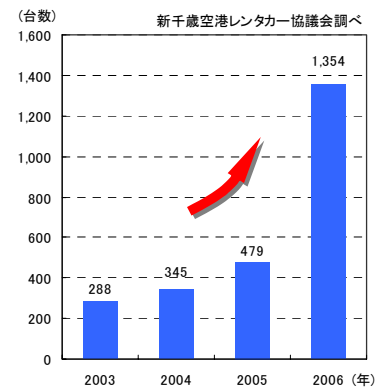


図2 千歳空港の外国人レンタカー貸出数

\*キーワード: 観光・余暇、景観、意識調査分析、交通情報

\*\*正員, \*\*\*\*\*正員工博, (独)土木研究所寒地土木研究所  
(札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34,  
TEL:011-841-1746, FAX:011-841-9747)

\*\*\*正員工修, \*\*\*\*非正員, 国土交通省北海道開発局  
(札幌市北7条西2丁目, TEL:011-709-2311,  
FAX:011-757-3270)

\*\*\*\*\*正員工博, シーニックバイウェイ支援センター  
(札幌市中央区南2条東2丁目2-11,  
TEL:011-204-7107, FAX:011-204-7108)

### 3. 実証実験の概要<sup>4)</sup>

・実験実施機関: 外国人ドライブ観光推進協議会(シーニックバイウェイ支援センターを中心に、旅行・レンタカー・携帯電話・カーナビゲーションソフト



供と共に、現地での案内・誘導の状況やカーナビの有効性などを事前にインターネット等で情報提供することにより、旅行前の不安を少なくする必要がある。

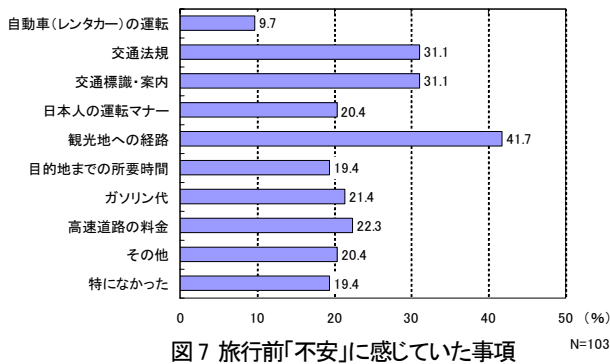


図7 旅行前「不安」に感じていた事項

### (3) ドライブ観光への期待度と満足度

図8に、ドライブ観光に関する各項目ごとの旅行前の期待度と実際の満足度を表す。今回の旅行の主な目的とされた「景観」「食」「温泉」については、いずれも高い期待度に対し満足度も高い評価となったが、「景観」については最も期待が高く、ドライブ観光の振興にはその魅力向上としての沿道景観改善の取り組みが最重要である。また、旅行前の期待度が低かった「道路上の案内表示」や「道路の走行のしやすさ」等は、満足度が期待度を大きく上回り、北海道観光へ貢献している。

また、夏のツアー期間は高温の日が続いたことが原因し、全体として「気候」については満足度か期待度を下回った。シンガポールのような常夏の国からは「北海道の(涼しい)気候」にも期待が高く、残雪や紅葉の景観にも魅力を感じており、夏だけでなく春・秋のドライブ観光にも期待できるといえる。

なおドライブ観光での再訪意向は約95%と高かった。

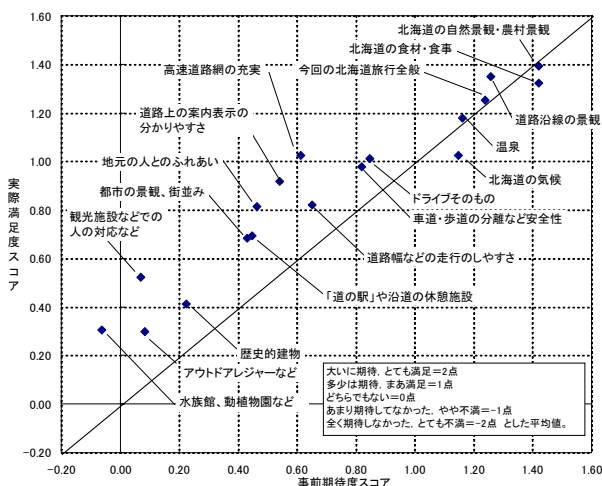


図8 ドライブ観光についての旅行前の期待度と実際の満足度

### (4) ドライブ観光の課題と改善項目

図9より、多くの項目で約7~8割が良好な評価を得た。一方、「英語版のドライブ・ガイドマップの豊富さ」について満足度が低かった。原因は、シンガポール

では台湾・香港に比べ旅行前に入手できるドライブ関連情報が少ないことが考えられる。同様に満足度が低かった「高速道路料金」については、料金のほか割引制度が受けにくいことや事前に入手できる日本のドライブの情報が少ないことも原因していると考えられる。

したがって、計画段階での外国人向けドライブ関連情報のWebサイトやパンフレットなどの充実が必要であり、到着後は情報更新のされた外国語対応カーナビが有効である。また、外国人旅行者が容易に高速料金割引を受けられることも必要である。

当初懸念された観光地への経路案内は、「案内表示」が概ね評価され、自由意見では「量的整備よりも英字表記や景観配慮など質的改善」を望む意見があったが、「標識の数は十分である」と評価され、漢字がある程度理解できることもあり、むしろ「分かりやすい」との評価も少なくなかった。なお、高速道路整備区間が主なツアーコースとなっていたためその利用も多く、ルート自体の評価は高くなった。

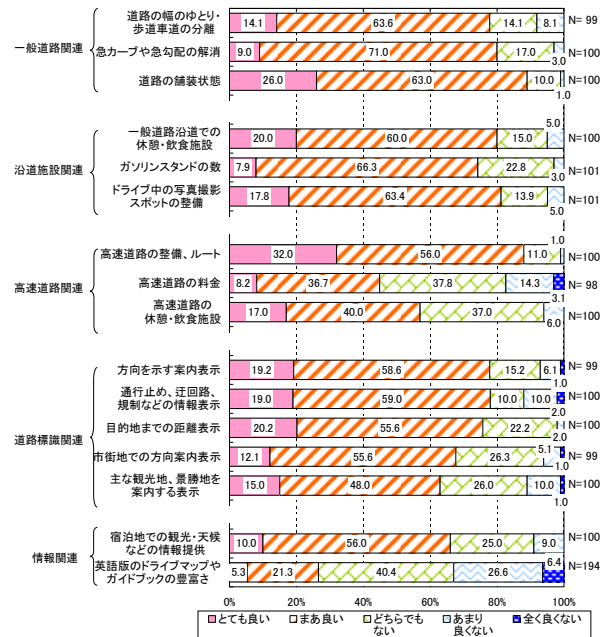


図9 ツーリング環境の各項目についての満足度

### (5) 自由回答

主な意見を次にまとめた。良い点としては「沿道の景観のすばらしさ」「道路の走行快適性と安全性」「位置コードと対応したカーナビゲーションによる案内・誘導」「日本のドライバーのマナーの良さ」などの評価が大変多く、特に「移動途中の自然景観」は多くの回答者に極めて高い魅力と評価され、「初夏の残雪」や「秋の紅葉」の魅力にも回答が多かった。また、「案内標識」については、「設置箇所が十分」「漢字が理解できるので分かりやすい」とする回答も少なくなかった。

次に、不自由だった点、困った点としては、「カーナビの情報更新や外国語対応」などシステムの改善を求

める意見が非常に多く、次いで海外での運転経験の豊富さから「郊外部での制限速度の低さ」が続いた。他には、案内標識について「英語表記・サイン化・観光地での色彩配慮など」「駐車場情報や料金」「景観ポイントでの停車場」「道路の狭さ」などの回答があった。良否全体でカーナビの「英語対応・データ更新・操作性」に関する意見が多数あり、必須のツールとして評価しているために改善の意見が多くなったと考えられる。

## 5. 冬期の外国人観光客とレンタカー関係者への調査

寒地土木研究所では、夏期の実証実験をふまえ 2007 年 2 月に千歳空港周辺とニセコのレンタカー営業所にて、外国人レンタカー利用の観光客へのアンケートとレンタカー事業者関係者（邦人と豪州人）にヒアリングを行った。

### (1) レンタカー利用者への調査

冬期のため、有効回答者数が 12 名と少なかったが、調査の結果の概要は以下の通りである。なお、冬道に関する回答はここには含まない。

- ・ 旅行計画時に不安に感じたことは、「移動中の駐車場の情報」が最も多く 58% (7 名) であった。
- ・ 旅行前に入手したい情報は、実証実験と同様に「目的地までのルートと所要時間」58% (7 名) であった。
- ・ 道の駅の利用については、17% (2 名) と少なく、移動中の駐車場の情報を求めているにもかかわらず、外国人ドライバーへの認知度は低いといえる。

なお、実証実験における道の駅利用についても、配布した英語版のドライブマップに詳しく紹介していたが、海外ではこのような制度がないことから、認知度は低かった。従って、今後は道の駅について広く広報するとともに、外国人ドライバーが通るルート周辺の道の駅における外国語対応が必要となるのではないかと。

### (2) レンタカー事業者への調査

限られた営業所ではあるが、事業者への調査結果をまとめると以下の通りである。

- ・ 外国人の利用状況は、夏場を中心に確実に増えているが、冬期にも利用がある。
- ・ 外国人の受け入れ態勢は、英語対応できる職員を常勤させている営業所は極僅かで、今後に向けて外国人利用の多い営業所を中心に受け入れ体制強化を検討しているが、季節変動が大きくコストがかかるので、全体としては事業者によって対応は分かれる。
- ・ ツーリング環境に対する要望では、郊外部での制限速度の緩和や案内標識だけでなくガソリンスタンドや駐車場など関連施設も含めて、英文併記やサイン化を求める意見があった。
- ・ 国際免許が必要であることを理解していない観光客が多く、貸し出しを断る事例が多い。

## 6. まとめ

以上をふまえて、北海道における外国人レンタカードライブ観光のニーズと課題を整理すると、以下の通りである。

- ・ 北海道では、沿道景観を楽しみながらの外国人ドライブ観光が今後大きく増大すると予想される。
- ・ 暑い国からは、涼しい気候や紅葉にも期待が大きく、多い夏だけでなく、邦人観光客の少ない初夏や秋の時期の入り込みも期待できる。
- ・ 北海道のドライブ観光の魅力は沿道景観が大きな要素となっており、景観の保全や改善は最重要。
- ・ 日本国内の運転には、国際免許が必要なことなど、交通法規や高速道路・駐車場の利用方法、経路案内など、共通のドライブ関連情報は、各関係機関が協力して外国語での積極的かつ一元的な情報提供が必要で、その際には旅行前に容易に入手出来るインターネットが効果的。
- ・ 案内標識は、量的整備より標識の外国語表記やサイン化の整備など質的整備が重要であるが、色彩配慮など旅行目的である景観の魅力低下にならないよう留意する必要がある。
- ・ 案内標識以上に位置情報コードと連動した外国語対応のカーナビの整備や外国語のドライブマップの整備が運転支援には有効
- ・ 道の駅について外国語での広報と併せて、今後は外国人対応機能の向上が必要になると考えられる。

魅力あるツーリング環境の実現には、ドライブ観光の利便性の向上はもちろんだが、それ以上に自由回答に多くあった沿道景観の素晴らしさなど、北海道の地域資源の魅力を保全・向上させることが最も大切である。したがって、シーニックバイウェイ北海道のような官民が連携した地域の魅力向上の取り組みが重要である。

本実験協議会に参加している他の機関の方々や、アンケート調査にご協力頂いた皆様に感謝の意を表したい。

### 参考文献

- 1) 和泉、田村、松田、原：北海道におけるドライブ観光の可能性と課題、第 33 回土木計画学研究発表会、2006 年 6 月。
- 2) 松田、松島、大谷：北海道における外国人ドライブ観光のニーズと課題、北海道開発局技術研究発表会、2007 年 2 月。
- 3) 北海道観光入込客数調査報告書、北海道経済部観光のくまびろ推進局、2006 年 7 月。
- 4) 北海道における地域協働型外国人ドライブ観光推進調査報告書、外国人ドライブ観光推進協議会、2007 年 1 月。
- 5) 松田、松島、松山、畑山、大谷：北海道における外国人ドライブ観光を支援する情報提供について、第 35 回土木計画学研究発表会、2007 年 6 月。